

「おおまさりネオ」の栽培方法

* 品種登録出願中（出願番号：第32136号 出願年月日：平成29年5月18日）



おおまさりネオ

おおまさり



おおまさりネオ

おおまさり

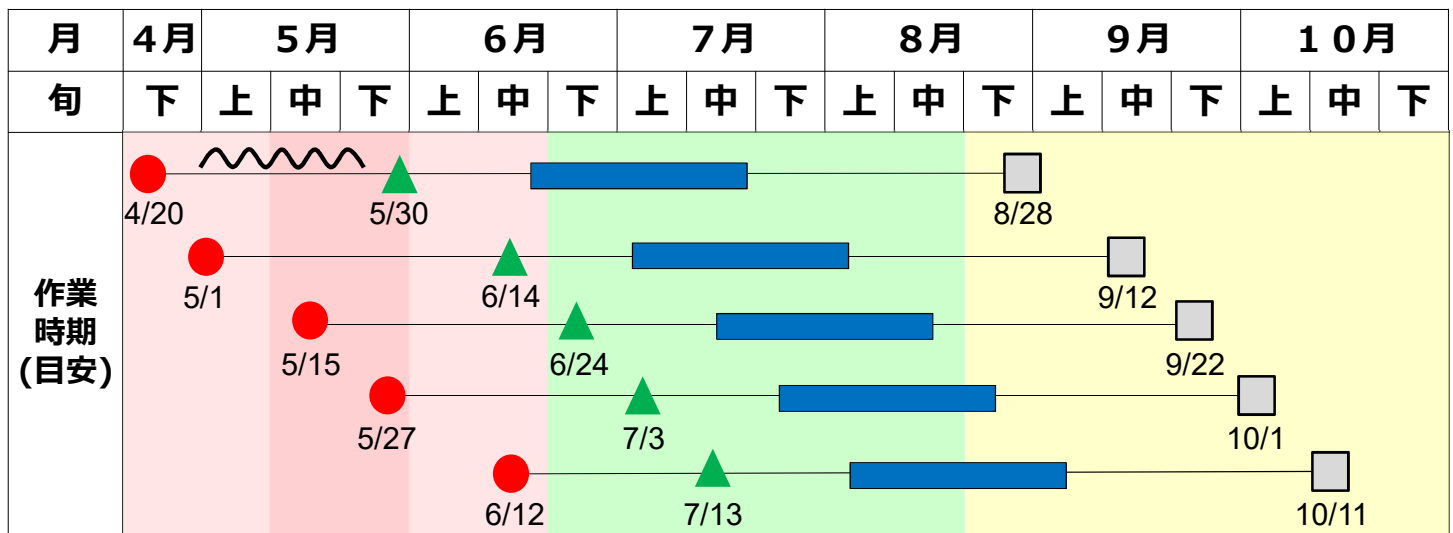
品種特性

（「おおまさり」と比べて）

- ◆草型は立性、分枝が短くコンパクト
- ◆白絹病や茎腐病に強い
- ◆ゆで豆としての収量・製品率は同等
（ゆで豆製品率 30~60%、
目標ゆで豆製品重 500kg/10a）
- ◆食味は同等でおいしい

「おおまさりネオ」の生育・生産量の目安

最長分枝長	分枝数	10a当たり生莢実重	1莢当たり生莢実重	上実百粒重 (乾燥時)
50~60cm	40~60本	1,000~1,500kg	10g	121g



〰️ べたがけ ● 播種 ▲ 開花期 ■ かん水期間 □ 収穫 ※日付はH28~30年の結果からの推定（開花期後90日収穫）

栽培のポイント

(1) 肥料は慣行の基準に従う

- 窒素：リン酸：加里 = 3：12~15：12~15kg/10a

(2) 栽植様式は慣行の株間30cm・2条播種

- 「おおまさり」のように株が広がらないので、株間を広くとる必要はない。
- 9230(フィルム幅95cm、2条、条間45cm、株間30cm)のマルチが適し、10a当たりの播種量は1粒播きで約7kg。フィルム幅210cmの4条マルチでも栽培が可能。

(3) 播種可能時期は4月下旬から6月上旬

- 収量（生莢実重）とゆで豆製品率が上がる播種時期は5月中旬~下旬。播種が早いとゆで豆製品率が低下、遅いと収量（生莢実重）が低下する。
- 4月下旬の早期播種ではべたがけ資材の利用により、収穫が約7日早くなる。
- ヒョウタンゾウムシの被害が大きい圃場では、早期の播種は特に被害を受けやすいので注意する。対策として、トクチオン細粒剤F等により適宜防除する。

(4) かん水は開花期後20日から定期的に行う

- かん水不足は空莢及び不良子実の原因となる。通常の品種（「ナカテユタカ」、「千葉半立」等）よりも莢の充実期に水を多く必要とする。
- 開花期後20日目からは1週間に1回程度、定期的にかん水を行う（1回のかん水量の目安は30~50mm）。

(5) 収穫適期は開花期後85~90日

- 収穫が早すぎると子実の成熟不足により品質が低下する。収穫が遅すぎると落ち実の発生により収量が低下する。

(6) 採種では乾燥期間を十分に確保する

- 極大粒品種は子実水分が高いため、採種栽培の場合は5月中に播種、開花期後90日を目安に収穫し、乾燥期間を十分に確保する。
- 乾燥が不十分の場合は子実水分がある程度低下したら脱莢し、風通しが良い室内で3週間程度さらに乾燥させる。